

欣喜堂

川越は城下町である。一五九〇年、徳川家康が一族家臣を従えて関東に移ったとき、川越には酒井重忠が封じられた。川越藩は、江戸時代には一七万石を誇っていた。江戸時代の本丸御殿は、建物の数一六棟、一〇二五坪の規模を誇るものだったという。

手指の消毒と検温を経て、川越城本丸御殿に入館する。現存する本丸御殿は江戸時代末期の一八四八年に建てられた。明治以降、建物の移築・解体が行われ、本丸御殿の玄関部分と大広間のみが、役所、工場、校舎などに使用されていった。玄関部分と大広間だけでも大きな建物で、このような本丸御殿は、高知城にあるだけという貴重な遺構である。

家老詰所は、本丸御殿に勤めていた藩の家老が詰めていた建物である。この建物は明治初期に解体され商家に再築されていたが、一九八七年に現在の場所に移築された。

川越城中ノ門堀跡をみたのち、埼玉県立川越高校の横を通って富士見櫓跡に向かった。もともと川越城には天守閣が造られておらず、その代用としての役割を富士見櫓が担っていた。「川越城富士見櫓跡」という石碑がある。

説明板の脇の登り道は閉鎖されていて入れなかったが、別に真っ直ぐな階段があった。途中に、富士見稲荷大神・御嶽神社・浅間神社の三社が建てられており、そこに参拝する道のようなのだ。そこからは本来の登り道になり、さらに石段を登って富士見櫓跡にたどり着く。

川越城には、東北の隅に二重の虎櫓、北には菱櫓、そして西南の隅に三層の富士見櫓があった。城の中で一番高い所にあったのが富士見櫓である。

100名城と方広B.K

